

公開実用平成 1-100564

JP-01-100564-U1

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U) 平1-100564

⑪ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)7月6日

H 04 N 1/00
G 06 F 15/64
H 04 N 1/00
1/12

3 2 0
1 0 8
1 0 3

D-7334-5C
J-8419-5B
Q-7334-5C
7037-5C

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 原稿移動型イメージスキャナ

⑮ 実 願 昭62-196490

⑯ 出 願 昭62(1987)12月24日

⑰ 考 案 者 小 川 泉 静岡県田方郡大仁町大仁570番地 東京電気株式会社大仁工場内

⑱ 出 願 人 東京電気株式会社 東京都目黒区中目黒2丁目6番13号

⑲ 代 理 人 弁理士 柏 木 明



明 細 書

1. 考案の名称

原稿移動型イメージスキャナ

2. 実用新案登録請求の範囲

上面に形成された原稿搬送路と駆動部に連結されてこの原稿搬送路上の原稿に接触する搬送体とを有するケース本体の上面に、前記原稿搬送路を開閉するカバーを回動自在に連結し、前記カバーに光信号を電気信号に変換化する光学読取部を固定するとともに前記搬送体に接触する搬送体を回轉自在に取付けたことを特徴とする原稿移動型イメージスキャナ。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

この考案は、原稿移動型イメージスキャナに関する。

従来 of 技術

従来、ケース本体の上面に形成された原稿搬送路に沿ってローラやベルトコンベア等の搬送体を回転自在に設け、この搬送体に接触する回転自在の搬送体と原稿搬送路上の原稿の画像を読み取る光学読取部とよりなる読取ユニットをケース本体の上面に回動自在取付け、ケース本体の原稿搬送路と読取ユニットとを覆うカバーをケース本体の上面に固定的に取付けた原稿移動型イメージスキャナが有る。

考案が解決しようとする問題点

このようなものは、上下の搬送体により原稿を挟持して搬送する過程で光学読取部により原稿の画像を読み取るものであるが、原稿が途中で詰った場合には、ケース本体からカバーを外し読取ユニットを上方へ回動させて原稿搬送路を開放しなければならない。したがって、ジャム処理作業が極めて不便である。

問題点を解決するための手段

この考案は、上面に形成された原稿搬送路と駆動部に連結されてこの原稿搬送路上の原稿に接触する搬送体とを有するケース本体の上面に、前記原稿搬送路を開閉するカバーを回動自在に連結し、前記カバーに光信号を電気信号に変換化する光学読取部を固定するとともに前記搬送体に接触する搬送体を回転自在に取付けたことを特徴とする。

作用

したがって、カバーを上方へ回動するだけで上部の搬送体と光学読取部とが原稿搬送路の上方に退避するため、ジャム処理が極めて容易に行われる。

実施例

この考案の一実施例を図面に基づいて説明する。

1 はケース本体で、このケース本体 1 には、原稿 2 を載置する原稿載置面 3 と、この原稿載置面 3 の延長面上に位置する原稿搬送路 4 とが形成され

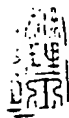
ている。また、ケース本体 1 にはこの原稿搬送路 4 に沿って搬送体である複数のローラ 5, 6, 7 が駆動部（図示せず）に連結されて回転自在に保持されている。

また、原稿搬送路 4 を覆う下面開口の箱型のカバー 8 は内部に固定されたフレーム 9 を有し、このフレーム 9 の端部に固定されたブラケット 10 がケース本体 1 に支軸 11 により上下回動自在に保持されている。このフレーム 9 にはローラ 5, 7 に接触する搬送体であるローラ 12, 13 が回転自在に取付けられているとともに、原稿搬送路 4 に対向する案内板 14 と光学読取部 15 とが固定されている。この光学読取部 15 の下端に対向する案内板 14 の一部は透光性の部材により形成されている。

さらに、ケース本体 1 には操作部 17 を有するクランプ 16 がスプリング 18 により時計方向へ付勢されて支軸 19 により回動自在に保持され、

このクランプ 1 6 の回動遊端に形成された爪 2 0 に係合する係止縁 2 1 と操作部 1 7 に対向する窓（図示せず）とがカバー 8 の前面に形成されている。さらに、フレーム 9 の一側に固定されたアーム 2 2 と支軸 2 3 によりケース本体 1 の内面に回動自在に取付けられたアーム 2 4 とが回動自在に連結されている。

このような構成において、原稿載置面 3 から原稿搬送路 4 に押し出された原稿 2 はローラ 5, 6, 7, 1 2, 1 3 により搬送される過程で光学読取部 1 5 により画像が読み取られる。原稿 2 が搬送路 4 の内部で詰った時は、カバー 8 の前面に形成された窓から操作部 1 7 を押して支軸 1 9 を中心にクランプ 1 6 を反時計方向へ回動させて爪 2 0 を係止縁 2 1 から外し、支軸 1 1 を支点にカバー 8 を上方へ回動する。この時、アーム 2 4 が支軸 2 3 を支点に時計方向へ回動してカバー 8 を支える。これにより、ローラ 1 2, 1 3 と案内板 1 4



と光学読取部 15 とが上方へ移動して原稿搬送路 4 を開放する。このように、カバー 8 を上方へ回動させるだけで原稿搬送路 4 が開放されるので、ジャム処理を短時間のうちに容易に行うことができる。

考案の効果

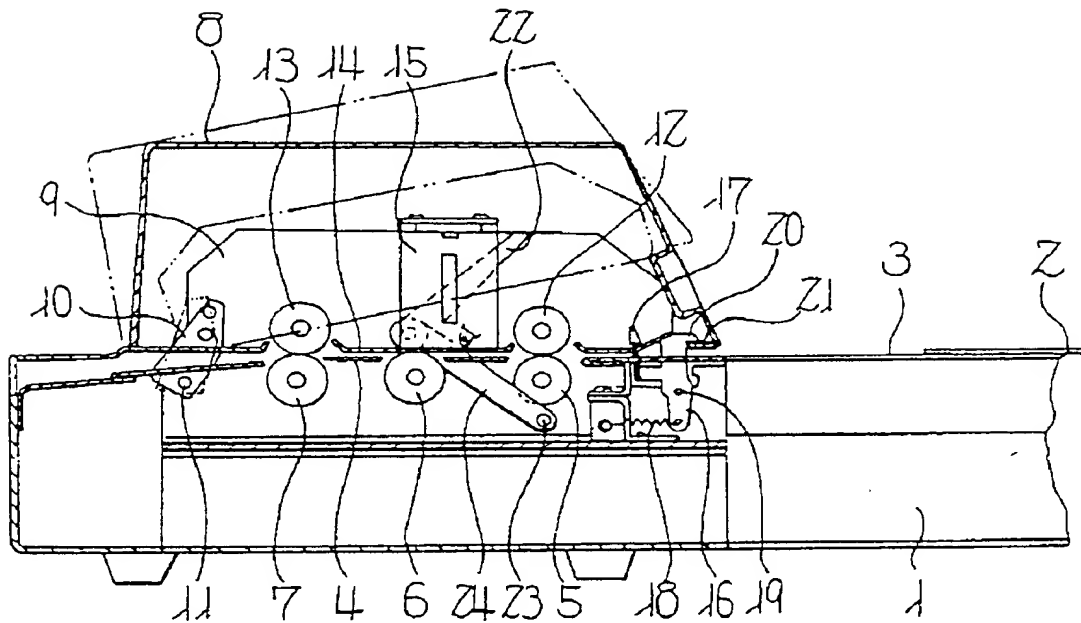
この考案は上述のように構成したので、カバーを上方へ回動するだけで上部の搬送体と光学読取部とが原稿搬送路の上方に退避するため、ジャム処理を極めて容易に行うことができる効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

図面は一部を断面にしてこの考案の一実施例を示す側面図である。

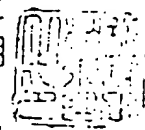
1 … ケース本体、 4 … 原稿搬送路、 5 ~ 7 … 搬送体、 8 … カバー、 12, 13 … 搬送体、 15 … 光学読取部

- 1...ケース本体
 4...原稿搬送路
 5-7...搬送体
 8...カバー
 12,13...搬送体
 15...光学読取部



BEST AVAILABLE COPY

出願人 東京電気株式会社
 代理人 柏 木 明



771

特開 1-100564